

リサーチセンター進捗状況報告書

センター名	インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター
センター長名	石田 誠
設置の時期	平成17年4月1日
報告書作成日	平成19年8月31日

1. 設置の目的

21世紀COE拠点形成プログラム「インテリジェントヒューマンセンシング」を基盤として、インテリジェントセンシングシステムの研究開発、及び当該分野における若手研究者の人材育成を行なう国内外の中核研究拠点としての役割を果たす。

2. 設置後の研究成果

21世紀COEプログラムにおいて、3つの研究グループ（コア）が横断的に連携を行うプロトタイププロジェクト「HIBALIS」が開始された。本リサーチセンターはこのプロトタイプ形成プロジェクト遂行において、文字通り学内横断的な教員連携による総合的研究拠点としての役割を果たした。その成果もあり、生体信号をポータブルに獲得するためのマイクロチップセンサ技術、大量のセンシング情報を制御、処理、蓄積するコンパクトなセンシング情報処理システム、大量の生体信号から得られるデータに基づく時系列データマイニング技術、人に優しいヒューマンインタフェース情報技術を含めた大学の教育現場で活かすためのWeb教育支援技術など、個々の要素技術が開発され、COEプログラムを成功へと導くことができた。これは、COEの中間評価で指摘された点の成果となり、新たなグローバルCOEの獲得につながった。

3. 今後の研究計画及び期待される効果

平成19年度から開始されるグローバルCOEプログラム「インテリジェントセンシングのフロンティア」においても、本リサーチセンターは引き続き、学内横断的な教員連携による総合的研究拠点としての役割を果たす予定である。グローバルCOEにおいては、スマートマイクロチップの基盤技術と先端的“知”の融合によって、①研究、②人材育成、③国際展開の面から、“3つ”のフロンティアを形成することを目指している。専門を異とする教員間で、リサーチセンターを核とする密接な共同研究が実施されると考えられ、本学の研究レベル向上により一層貢献するものと期待される。また、博士課程学生にむけた実践的研究者養成の教育研究プログラム遂行によって、企業においても即戦力となる優秀な博士課程修了者、若手研究者を育成できると期待される。

この進捗状況報告書は、評価の後公表します。